

会報

第 5 号



公益社団法人 神戸海難防止研究会

THE KOBE MARINE CASUALTY PREVENTION INSTITUTE

表紙写真

高知港

高知県港湾・海岸課 提供

目 次

第10回 月 例 会 概 要

- (1) 事業経過報告等..... 1
(2) 講演 「明石海峡の航行環境」

大阪湾海上交通センター

運用管制課長 新 富 敏 隆 氏

第11回 月 例 会 概 要

- (1) 事業経過報告等..... 9
(2) 講演 「技術と安全、安全の文化」

前 海上保安大学校副校長 教授

日 當 博 喜 氏

事 業 報 告

平成25年度第1回船積危険品研究委員会.....	19
B社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査第3回委員会.....	25
平成25年度第2回船積危険品研究委員会.....	29
由良港における防波堤新設に伴う船舶航行安全検討調査現地調査及び 第1回委員会.....	31
平成25年度神戸中央航路等整備に伴う船舶航行安全対策調査第1回委員会.....	38
由良港における防波堤新設に伴う船舶航行安全検討調査第1回検討部会.....	41
平成25年度第3回船積危険品研究委員会.....	44
由良港における防波堤新設に伴う船舶航行安全検討調査 ビジュアル式操船シミュレータ実験.....	46
平成25年度近畿四国地方海難防止強調運動推進連絡会議.....	48

会 務 報 告

第10回業務運営会議.....	59
第4回理事会.....	61
第2回通常総会.....	64
第5回理事会.....	68
第11回業務運営会議.....	71
事務日誌抄.....	73

第10回 月 例 会 概 要

1 日 時 平成25年4月25日(木)15:00～16:30
2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
3 出 席 者 30名
4 概 要

(1) 事業経過報告等

世良専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講 演

大阪湾海上交通センター 運用管制課長 新富 敏隆 氏により「明石海峡の航行環境」と題し、講演が行われた。

《第10回月例会講演資料》

「明石海峡の航行環境について」

講師 大阪湾海上交通センター

運用管制課長 新 富 敏 隆 氏

1 明石海峡周辺の特徴

2 海上交通状況

- ・ 海上交通状況 (AIS 搭載船舶)
- ・ 明石海峡を通過する AIS 搭載船舶の状況
- ・ 交通形態と交差海域 (要注意海域)
- ・ 明石海峡の時間帯別通行量

3 明石海峡の特徴

- ・ 明石海峡付近の海底地形
- ・ 海象

4 明石海峡の主な交通ルール

- ・ 明石海峡航路の主な交通ルール
- ・ 航路西側海域における経路指定 (海交法第 25 条第 2 項)
- ・ 航路東側海域における経路指定 (海交法第 25 条第 2 項)

5 明石海峡の主な漁業

- ・ 主な漁業活動
- ・ 海苔養殖漁業
- ・ いかなご漁
- ・ いかなご漁としらす漁との違い
- ・ いかなご漁船群を回航する船舶

6 いかなご操業事例

- ・ 事例一①
- ・ 事例一②

7 明石大橋橋脚への衝突海難

8 明石海峡航路東口での多重衝突海難

9 鳴門海峡における安全対策

10 由良瀬戸（友ヶ島水道）における AIS バーチャル航路標識の実用化実験

明石海峡の航行環境



明石海峡の航行環境について

- 1 明石海峡周辺の特徴
- 2 海上交通状況
- 3 明石海峡の特徴
- 4 明石海峡の主な交通ルール
- 5 明石海峡の主な漁業
- 6 いかなご操業事例
- 7 明石大橋橋脚への衝突海難
- 8 明石海峡航路東口での多重衝突海難
- 9 鳴門海峡における安全対策
- 10 由良瀬戸(友ヶ島水道)におけるAISバーチャル航路標識の実用化実験

明石海峡の特徴

- 1 国内最大の通航船舶隻数**
 - ・通航船舶隻数800隻／日
 - ・大阪湾と瀬戸内海を結ぶ海上交通の要衝
 - ・複雑な交通流

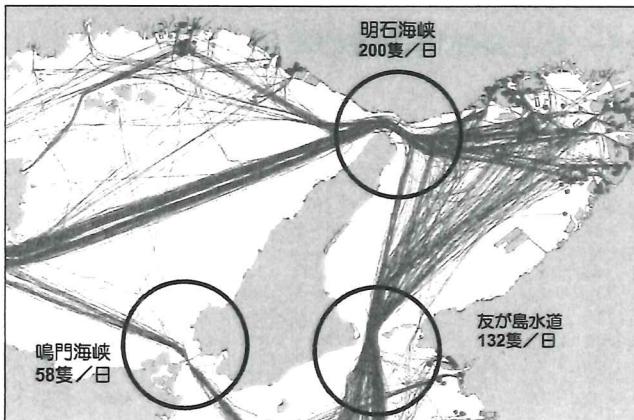
- 2 活発な漁業活動**
 - ・2月下旬～4月中旬：2艘船曳漁業（イカナゴ漁）
 - ・6月中旬～晩秋：2艘船曳漁業（チリメン漁）
 - ・9月～翌6月：のり養殖漁業
 - ・周年：底引き網漁業・一本釣り漁業

- 3 気象・海象**
 - ・最大7ノットに達する潮流
 - ・春先から梅雨時期にかけて濃霧が発生しやすい

明石海峡の海上交通状況

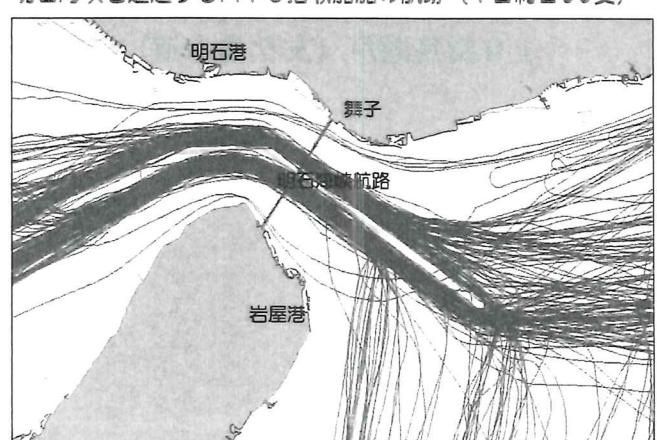


海上交通状況（AIS搭載船舶の航跡図）

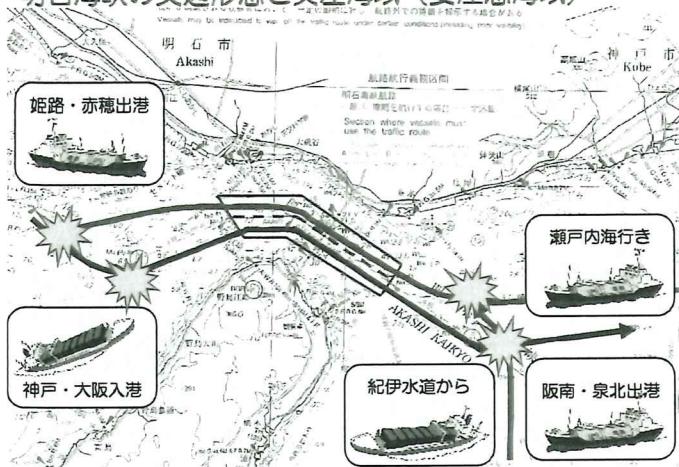


明石海峡・友ヶ島水道・鳴門海峡に、船舶が集中する。

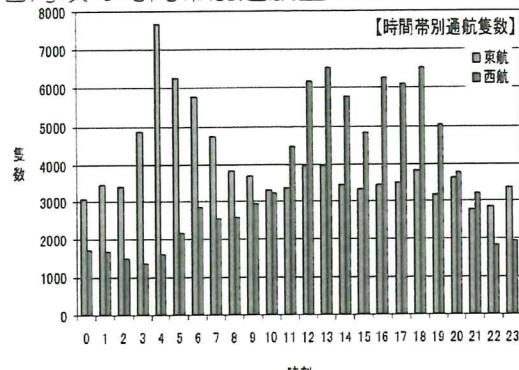
明石海峡を通過するAIS搭載船舶の航跡（1日約200隻）



明石海峡の交通形態と交差海域（要注意海域）



明石海峡の時間帯別通航量



【明石海峡の時間帯別通航量 平成23年統計】

*東航船:04時ピーク 西航船:12時～14時、16時～18時ピーク

明石海峡付近海域の海底地形



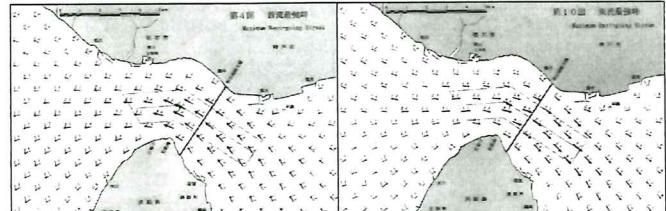
明石海峡の海象

●潮流の特徴

明石海峡航路付近の潮流は、大潮時には最大7ノット(時速約13Km)にも達するため通航船舶が明石側(北側)に圧流される傾向があります。

●霧の特徴

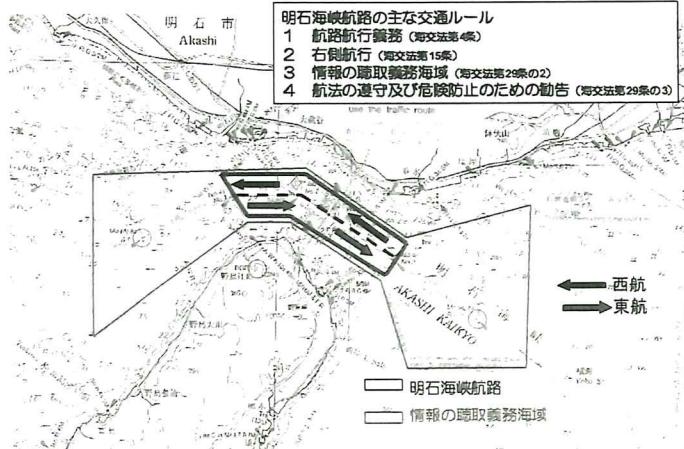
明石海峡周辺は、春先から梅雨期にかけて濃霧が発生しやすく視界が500メートル以下となることがあります。



明石海峡の潮流図【西流最強時】

明石海峡の潮流図【東流最強時】

明石海峡の主な交通ルール

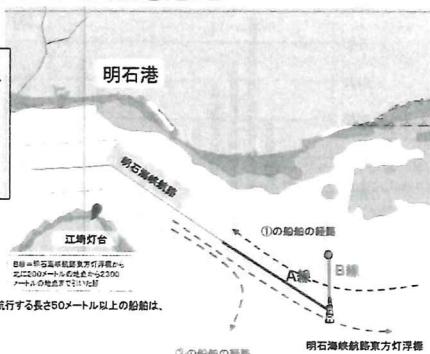


航路西側海域における経路指定 (海交法第25条第2項)



航路東側海域における経路指定

平成20年3月、航路東側入口海域で発生した多重海難事故の防止対策として、航路出入口付近の複雑な行き会い関係を改善するため、平成22年7月1日に導入。



【経路の概要】

- ① 明石海峡航路をこれに沿って西の方向に航行する長さ50メートル以上の船舶は、
・A線の北側の航域を航行すること
・B線を横切って航行すること

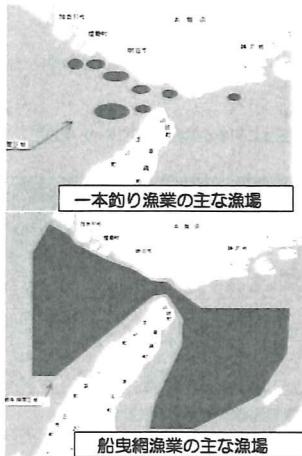
- ② 明石海峡航路をこれに沿って東の方向に航行した長さ50メートル以上の船舶は、
・A線の南側の航域を航行すること
・明石海峡航路東方灯浮標の設置されている地点からから200メートル以上離れた海域を航行すること

明石海峡の主な漁業



平成24年2月27日0600 イカナゴ漁業前の網集状況

明石海峡での主な漁業活動



一本釣り漁業の主な漁場



底曳網漁業の主な漁場

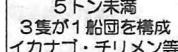
一本釣り漁船
4トン前後
たちうお・すずき等



底曳網漁船
5トン前後
たこ・カレイ等



船曳網漁船
5トン未満
3隻が1船団を構成
イカナゴ・チリメン等



海苔養殖漁業（9月下旬～翌5月上旬）



【明石海峡の海苔養殖の特徴】
明石海峡付近海域で行われる海苔養殖は、浮き流し養殖と呼ばれる漁法で、水深が深く、波浪が高い海域でも養殖が可能。

【浮き流し養殖】
漁場にパイを浮かべ、そこに海苔網を固定し海苔を養する方法。
有明海等、浅海地帯で行われている支柱網養殖とは異なり、海苔網を固定する支柱が必要でないため、水深が深く、波浪が大きい海域でも養殖が可能。

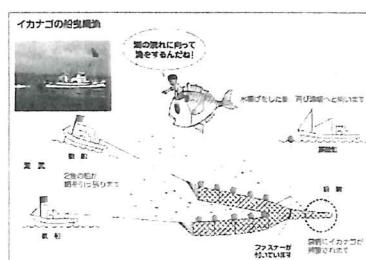
明石海峡のいかなご漁



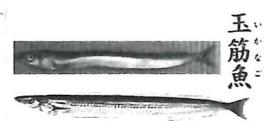
イカナゴ漁の漁業形態

船曳網漁業（地方名称：イカナゴ漁業）

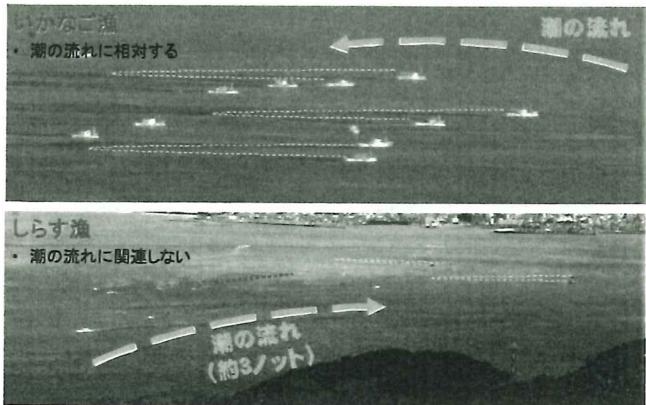
- ・イカナゴは、潮目に集まりプランクトンを食用する。
- ・イカナゴ漁は、2隻で曳網し、表面・中層に回遊する「いかなご」を採捕する漁法。
- ・明石海峡海域は、例年2月下旬頃から解禁となり活発な操業が行われる。
- ・盛漁期には、漁船群が航路内で操業するため航路は著しく混雑する。



- ・盛漁期 2月下旬～4月上旬
- ・操業時間 日出～屋過ぎ
- ・漁具全長 250～350m
- ・曳網速度 約1～2ノット



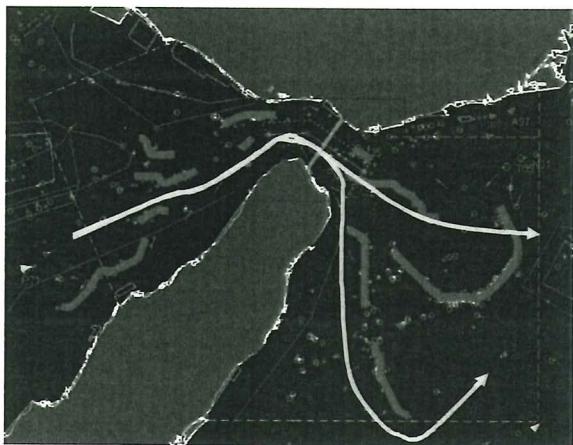
いかなご漁としらす漁との違い



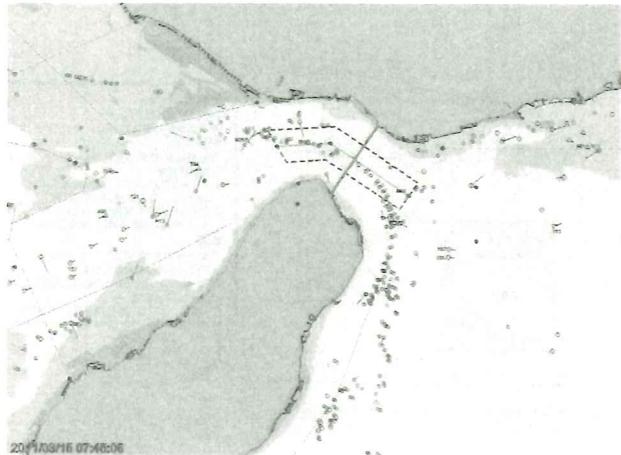
避航する大型船としょう戒船



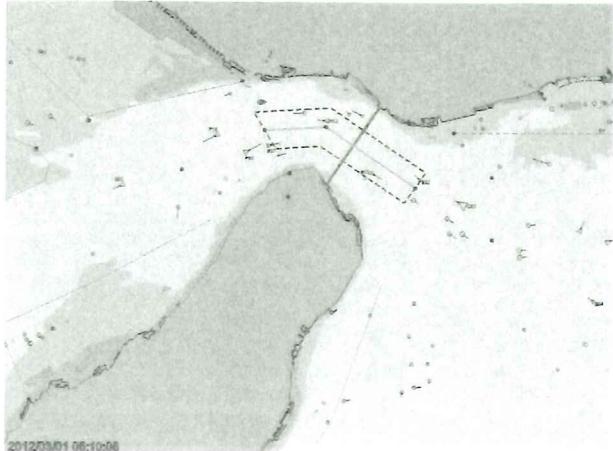
イカナゴ漁船群を回遊する船舶



いかなご操業事例－1

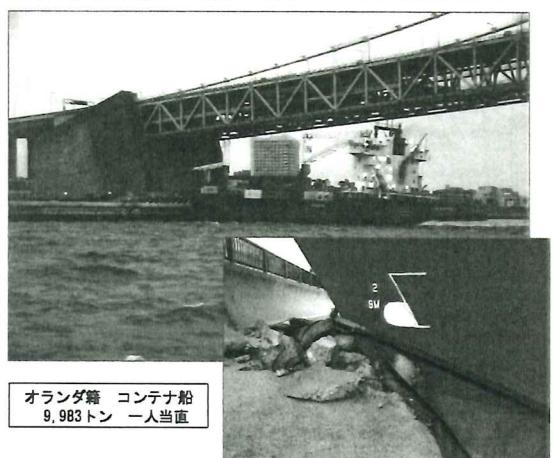


いかなご操業事例－2

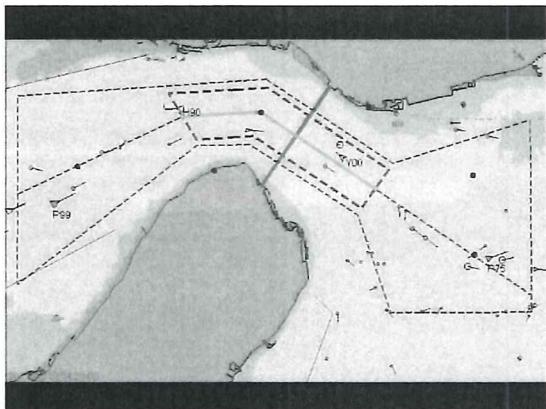


明石大橋橋脚への衝突海難

23年8月19日0440



明石大橋橋脚への衝突海難（動画）
オランダ籍 コンテナ船
9,983トン 一人当直



明石海峡航路東口での三重衝突海難 20年3月5日1455

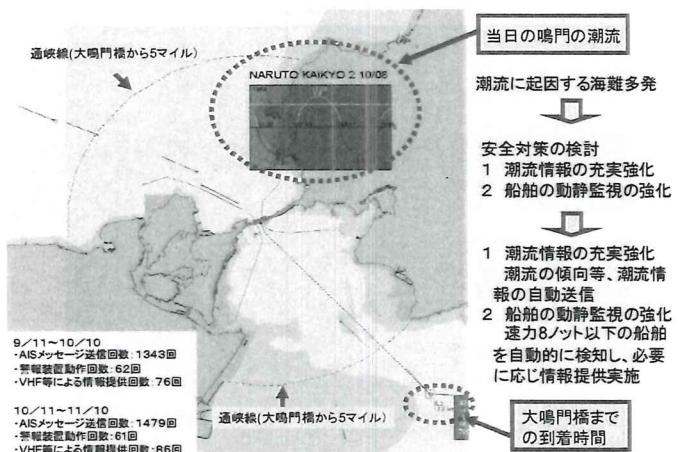


第五榮政丸 (砂運 496t)
GOLD LEADER (貨物 1,466t) 沈没
オーシャンフェニックス (ケミカル 2,948t)

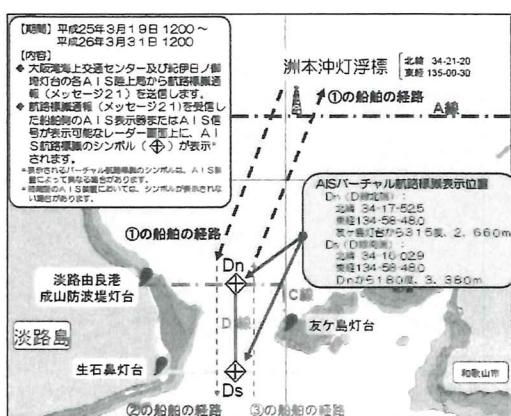
多重衝突海難事例（平成20年3月）



鳴門海峡における安全対策



由良瀬戸（友ヶ島水道）における
AISバーチャル航路標識の実用化実験



第11回 月 例 会 概 要

1 日 時 平成25年6月25日(木)15:00～16:30
2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
3 出 席 者 32名
4 概 要

(1) 事業経過報告等

世良専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講 演

前 海上保安大学校副校長 教授 日當 博喜 氏により「技術と安全、安全の文化」と題し、講演が行われた。

《第11回月例会講演資料》

「技術と安全、安全の文化」

講師 前 海上保安大学校副校長 教授
日當 博喜 氏

神戸海難防止研究会 第11回月例会 講演

技術と安全、安全の文化

日當 博喜

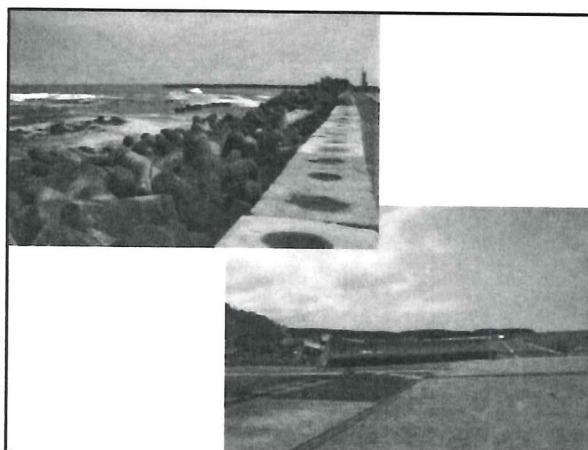
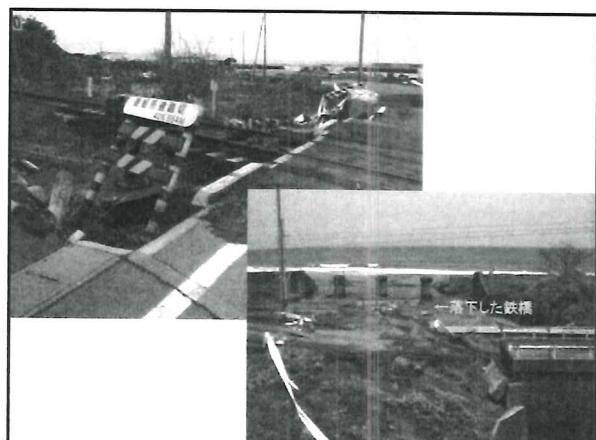
講演概要

プロフィール紹介

津波との関わり／船の操縦運動モデルの研究／
私と海難、安全との関わり

安全を考える

1. 安全とは
2. 事故防止の必要性
3. なぜ事故が起るか？
4. ヒューマンエラーについて
5. 技術の延長線上に安全はあるか(安全の文化)
6. 事故防止のために何ができるのか
7. 陸上交通の場合
8. 操船シミュレータを用いた訓練の効果の検証
9. 事故の起り方を知る
10. その他参考



我が町の場合→過去の津波被害の教訓が生きた！

先ず高台に避難した！

その結果→町の犠牲者はゼロ

防潮堤の設置の他、普段から避難訓練を
実施している。→ 意識が高い！

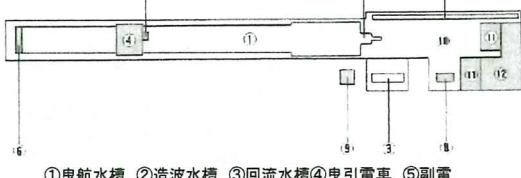
被災後は町内会(婦人会)の幹がチーム力を発揮

船の操縦運動モデルの研究

広島大学 船型試験水槽

水槽本体:長さ×幅×水深=80m×8m×3.5m

最大幅部:長さ×幅×水深=20m×10m×3.5m

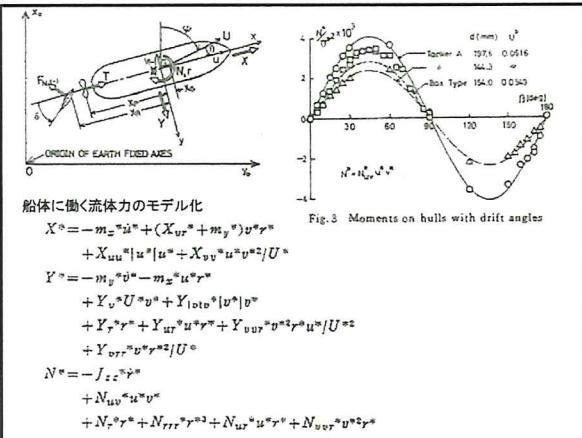


①曳航水槽、②造波水槽、③回流水槽④曳引電車、⑤副電車⑥造波機、⑦トリミングタンク

船の操縦運動モデルの研究

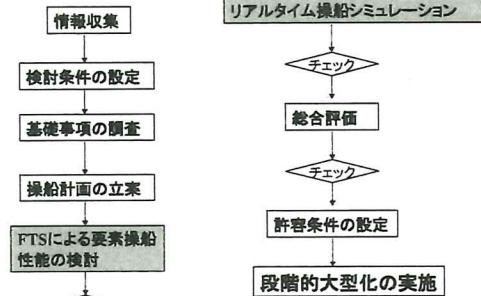


広島大学 変航水槽



操船シミュレータを活用した安全性評価の手順の提案

船型大型化検討の例



(日本造船学会論文集 第158号)

私と海難、安全との関わり

これまでに開わった主な海難

- ・着水艦などしお衝突(横須賀) (S63年7月)
 - ・まき網漁船「五郎竹丸」転覆 (H6年12月)
 - ・工作船(九州南西海域) (H13年12月)
 - ・練習帆船「海王丸」走航乗揚げ(富山湾) (H16年10月)
 - ・イスラエルコンテナ船と漁船衝突(根室東方) (H17年9月)
 - ・高速旅客船トッピー4衝突(鹿児島沖) (H18年4月)
 - ・イージス艦と漁船の衝突事故(野島崎沖) (H20年2月)
 - ・フェリー ありあけ横転漂流乗揚げ (H21年11月)



海上保安庁における安全運航研修

海上保安シミュレーションセンター





安全を考える

安全とは？

- ◆ 広辞苑
 - ・安らかで危険のないこと。平穏無事。
 - ・物事が損傷したり、危害を受けたりするおそれのこと。
- ◆ ISO/IECガイド51
 - 受け入れ不可能なリスクがないこと。
- ◆ JISZ8115
 - 人への危害または資材の損傷の可能性が、許容可能な水準に抑えられている状態。

by 北野 大氏

受け入れ不可能な危険とは

年間死亡率

- ◆ 10^{-3} 以上 … 拒否
- ◆ 10^{-3} から 10^{-6} … リスク・費用便益分析
 - ex. 交通事故死亡率 4×10^{-5} (4,410人、H24年)
 - 海難の死者行方不明者 1,439人 (H22年)
 - うち、船舶事故によるもの 99人
- ◆ 10^{-6} 以下 … 受容

by 北野 大氏

事故防止の必要性

事故が発生すると…… 人命は言うまでもない

「勢力」を損失	} 業務の効率的推進の障害となる
「人材」を損失	
「予算」を損失	
「信用」を損失	

「安全確保」は組織の勢力維持のためにも必要

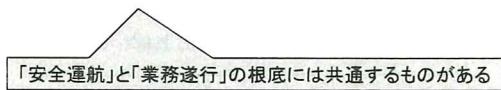
Japan Coast Guard Academy

事故防止の必要性

Q. 事故防止ばかり強調しすぎると、萎縮が生じてしまい、円滑な業務遂行に支障をきたすのでは…?

Q 安全確保と業務遂行は相反し／両立できないものなのかな?

A 安全確保のための知識／組織運営の考え方は、業務遂行時にも活用できる



Japan Coast Guard Academy

なぜ事故が起こるか？

一所懸命やっていても、真剣にやっていても、十分注意していても、事故になる場合がある
周辺環境が良好な状態であっても、事故になる場合がある
技量／経験が十分であっても、事故になる場合がある

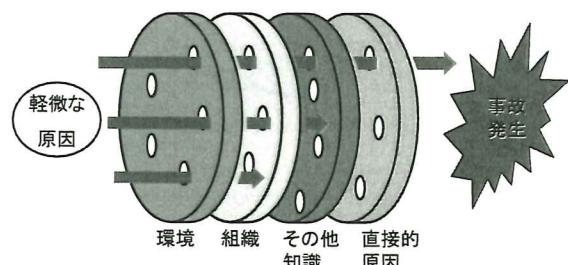
事故の原因の深層部分に「ヒューマンエラー」が存在していると考えられるものがかなりある

「ヒューマンエラー」とは、「達成しようとした目標から、意図せず逸脱することとなつた、期待に反した人間の行動」

Japan Coast Guard Academy

なぜ事故が起こるか？

■ ヒューマンエラーに起因する事故発生のイメージ



Japan Coast Guard Academy

なぜ事故が起こるか？

エラー／欠陥が重なったとき、連鎖するときに事故発生の危険が高まる

事故は、毎日発生するものではない

日常の判断／行動／認識
軽微な原因
軽微なエラー
エラーの原因

「軽微な原因」は常日頃から発生している

Japan Coast Guard Academy

ヒューマンエラーについて

人間の認識特性とエラー

(1)ヒューマンエラーの原因
人間の本能的な認識特性に起因→ 多分に主観的！

(2)人の認識(主観)特性

- ・安定と安心と眠り(本能)
- ・危険の認識(動きに対する感覚)
- ・人による制御の限界

(3)エラー連鎖切断による事故防止

経験だけでは不十分 → 学習が必要！

Japan Coast Guard Academy

技術の延長上に安全はあるか？

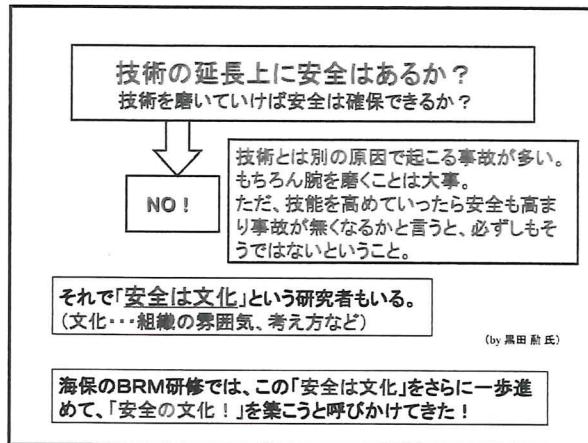
技術を磨いていけば安全は確保できるか？

航空機事故率(100万回フライト当たりの事故件数)

地域	事故件数	地域	事故件数
北米	1.3	アジア	5.9
中東	2.1	オーストラリア	0.9
歐州	2.7		
南米	4.0		
アフリカ	5.3		

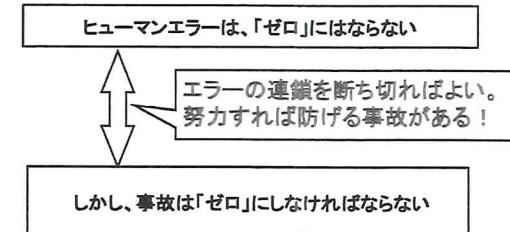
安全に対する考え方(安全哲学)の違いと言われる

(by 黒田 駿氏)

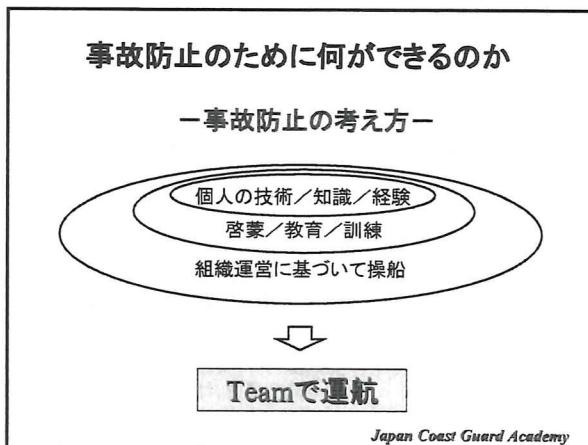


事故防止のために何ができるのか

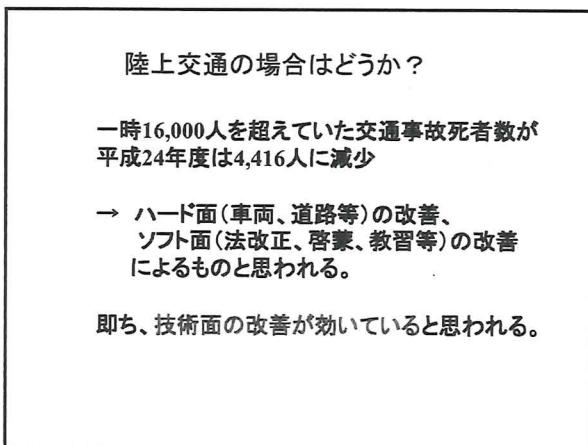
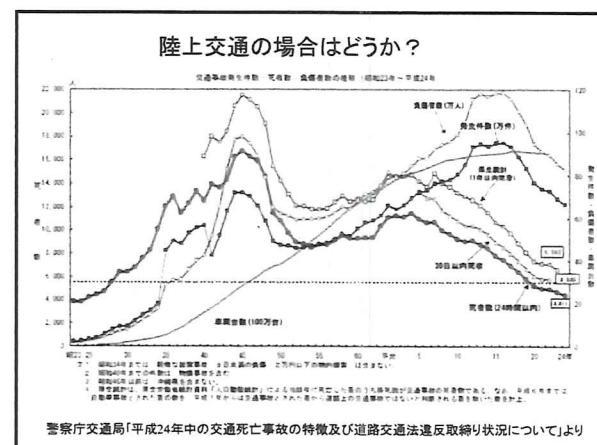
－事故防止の考え方－



Japan Coast Guard Academy



Japan Coast Guard Academy



専門家が陥りやすい問題点

- ・素人には理解できないという先入観
 - ・素人の参加を阻むこと
 - ・素人のニーズに合った情報を用意しないこと
 - ・素人が理解できない表現
- ・自我の強さ
 - ・自分は常に正しいという強すぎる信念
 - ・他の専門家の意見を探り入れない態度
 - ・素人の意見に耳を貸さない態度

by 北野 大 氏

ここまでまとめ

事故の抑止には、技能の向上だけでは限界がある。
しかし実務者はとかく技能に走りやすい。
→そこでBRMの導入(意識の変革)。ただBRMは万能か?

一方、ハードの改善(技術)により、減らせる事故がある。

つまり、意識と技術の両面からのアプローチが必要。

操船シミュレータを用いた訓練の効果の検証

操船シミュレータによる操船訓練とBRM訓練の評価手法及び効果に関する調査研究（西海防、H21年度）

受講者を対象に追跡調査を行うとともに、操船シミュレータを用いた検証実験を行い操船訓練とBRM訓練の効果を評価した。

成果の一部 → “BRM訓練の効果に関する実験的研究”
(日本航海学会論文集 No.124、H23.3)

操船シミュレータを用いた訓練の効果の検証

回答者のBRM／操船訓練受講数

訓練受講年	BRM訓練	BRM／操船訓練	操船訓練	合計
1992年	0	0	0	0
1993年	0	0	0	0
1994年	0	0	0	0
1995年	0	0	0	0
1996年	0	0	0	0
1997年	0	0	0	0
1998年	0	0	0	0
1999年	0	0	0	0
2000年	0	0	0	0
2001年	0	0	0	0
2002年	0	0	0	0
2003年	0	0	0	0
2004年	0	0	0	0
2005年	0	0	0	0
2006年	0	0	0	0
2007年	0	0	0	0
2008年	0	0	0	0
2009年	0	0	0	0

操船シミュレータを用いた訓練の効果の検証

訓練修了者への追跡調査

BRM訓練が安全運航に効果があったと思うか

回答	回答数
変化なし	24
効果あり	128
非常に効果あり	53
回答	47

その後の事故件数や如何に?

操船シミュレータを用いた訓練の効果の検証

訓練修了者の追跡調査から、受講者が訓練の有効性を認識していく、定期的に訓練を受ける必要性を感じていることが分かった。

初心者を対象に行った操船訓練から、訓練を重ねることによる操船技量の向上と習熟が認められた。

初心者を対象に行ったBRM訓練から、BRMに関する講義やディブリーフィングを受けた後においてチームワークが向上し、BRMの考え方およびBRM訓練は有効であることが確認された。

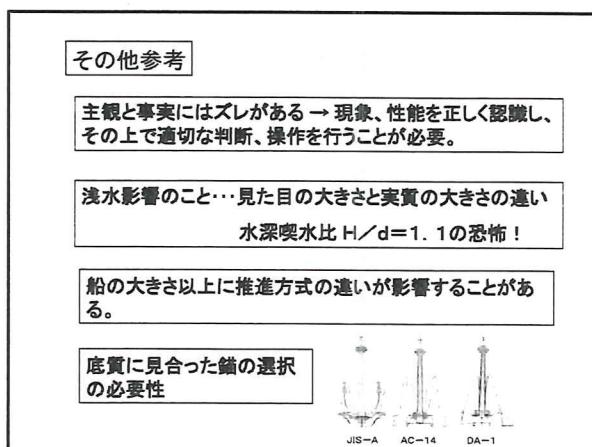
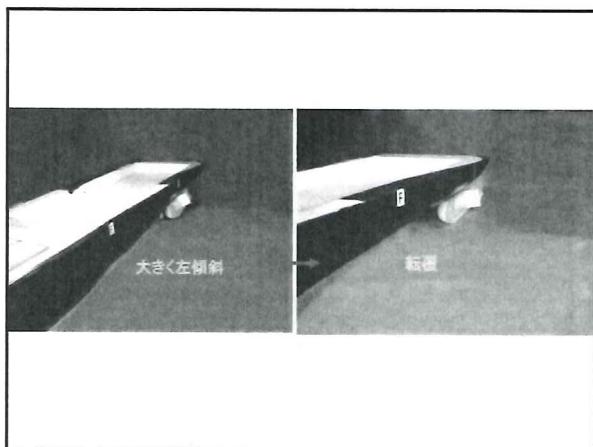
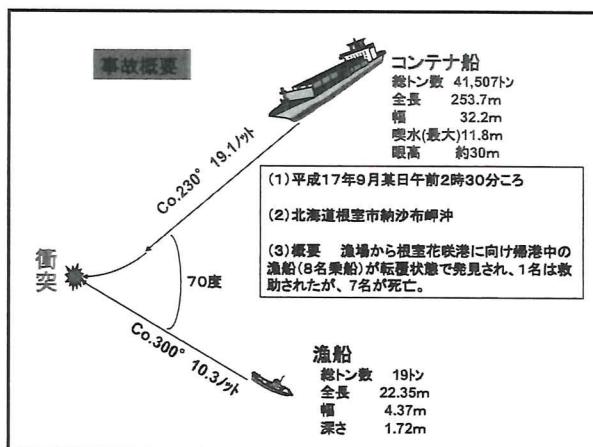
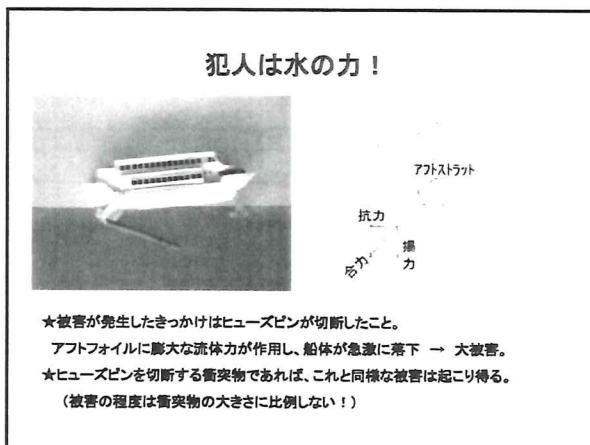
操船シミュレータによる訓練効果検証実験の結果を定量的評価尺度を用いて評価した結果、操船シミュレータを用いた訓練の効果が確認できた。

事故の起きた方を知る…その1

高速旅客船(ジェットフォイル)事故

船種: 高速旅客船(ジェットフォイル)
船名: ジェットフォイル
船籍: 日本
船長: 38.04m (高さを上げた状態)
全長: 38.4m
型幅: 4.5m
排水量: 2,500t
営業航路: 1.52m(航行中)
積載量(乗客): 116人
運送方式: ウォータージェット推進
機関種類: ガスタービン
馬力: 3,000馬力×2基
航速: 4.5ノット
船員: 3名
搭客定員: 243人
所有者: ポーリング社

平成18年4月某日午後6時過ぎ、鹿児島県佐多岬灯台から北北西方の海上を指宿港向け約40ノットの速力で貿走中、何らかの物体と衝突して急激な船体の減速・落下運動が生じ乗員乗客112人全員が負傷。



事 業 報 告

平成25年度第1回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成25年4月9日(火)13:00～15:00

2 場 所 商船三井ビル 7階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 平成25年度事業計画について
- (2) 検討個品について
- (3) その他

5 資 料

席上配布

- (1) 平成25年度事業計画について (案)
- (2) 検討個品資料 1 修正箇所 1792:3498 一塩化ヨウ素
 - 2 1792:3498 一塩化ヨウ素 (2回目修正)
 - データ一覧
 - データ一覧 (II)
 - 3 1223 灯油
 - データ一覧
- (3) その他 危険物運送貯蔵規則（「危一規則」）とIMDG-CODE INDEXの品名等について〈平成23年5月9日付〉（廣井委員長より）

6 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

議題の(1)について事務局からの説明後、資料(3)その他での「危険物運送貯蔵規則（「危一規則」）とIMDG-CODE INDEXの品名等について〈平成23年5月9日付〉」の説明があり、その後個品の検討に入った。

- 検討個品資料 1 修正箇所 一塩化ヨウ素については確認後終了した。
- 2 1792:3498 一塩化ヨウ素についてはホームページに掲載することで了承された。 (別紙)
- 3 1223 灯油については、次回も検討することとなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	[REDACTED] 三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	児 玉 正 浩	キソ一化学工業(株)代表取締役社長※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)
"	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所大阪支所副支所長
関 係 官 庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	西久保 滋	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長
"	岡 村 秀 貴	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 空野 哲平 海務第二係員)
"	三 宅 光 成	大阪海上保安監部航行安全課長 (同席 濱田 春菜 第一海務係員)
"	坂 中 裕 司	神戸海上保安部航行安全課長 (同席 青木 重久 第一海務係長)
事 務 局	山 本 幸 典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	藤 原 升	" 事業部長補佐

国連番号

1792; 3498

一塩化ヨウ素



IODINE MONOCHLORIDE



物質の特定

C A S 番 号 : 7790-99-0

化 学 式 : ClI; ICl

別 名 : Iodine chloride; Chloroiodide; Wijs chloride; Wijs reagent
(商品名) 塩化ヨウ素; ヨウ化塩素; ウィイスクロライド; ウィイス試薬

化 学 的 分 類 : ハロゲン間化合物

規則名・法規等

[規則名] UN1792 IODINE MONOCHLORIDE, SOLID
UN3498 IODINE MONOCHLORIDE, LIQUID
UN1792 一塩化ヨウ素(固体)
UN3498 一塩化ヨウ素(液体)

危一規則

分類・等級等: 腐食性物質 8 III

副次危険性等級: -

積載場所: 甲板上

コンテナ収納検査: 否 積付検査: 否

IMDG-CODE

分類・等級等: Class 8 III

副次危険性等級: -

積載場所: On deck

CFR 172. 101

分類・等級等: 8 III

ラベルコード: 8

積載場所: On deck

港 則 法 :-

荷役許容量 : A / 10

B / 250

C1 / 1000

C2 / 4000

海 防 法 :

消 防 法 : 第6類 その他のもので政令で定めるもの (ハロゲン間化合物)

船積上の注意事項

荷姿 危一規則規定によるものであること。

- イ. 居住区域から離れた場所に積載すること。(危)
- ロ. 居住区などの空気を汚染しないように隔離して積載すること。(IMDG-CODE, CFR)
- ハ. 別表第14に定める隔離基準においては、酸化性物質として他の危険物から隔離することとし、甲板上積載をする場合には、可燃性物質、酸化性物質及び放射性物質等から水平距離で6m以上離して積載することとし、甲板下積載をする場合には、これらの物質とは同一の船倉又は区画に積載しないこと。(危)
- 二. 酸化性物質として隔離し、可燃性固体、酸化性物質および放射性物質から6m以上離して積載すること。(IMDG-CODE, CFR)
- ホ. その他腐食性物質についての一般的注意事項に従うこと。

物理／化学的性質

外観等 : 黒色結晶または赤褐色液体。: α -型は安定で黒色針状結晶。(透過光ではルビーカラー) : β -型(不安定) 黒色小板状結晶。(透過光では褐赤色)

臭 : 刺激臭

比重又は嵩比重 : α -型 : 3.18(0°C); β -型 : 3.24(34°C)

蒸気比重 : 5.6

融点(°C) : α -型 : 27; β -型 : 14

沸点(°C) : 97(約100°Cで分解)

溶解性:

水 : (分解)

アルコール : 可

エーテル : 可

用 途

油脂・油のヨウ素価の測定、抗感染剤、抗菌剤

化 学 的 危 險 性

腐 食 性 :

人 : あり

金 属 : あり

木 材 : なし

酸 化 性 : あり

水 / 空 気 / 分解するまで加熱すると、HCl, HIなどを含む有毒な煙霧を発生し、爆発するおそ
熱 の 作 用 : れがある。水やスチームと反応し、有毒で腐食性の煙霧を発生する。

可 燃 性 : なし

引 火 点 (°C) :

発 火 点 (°C) :

爆発限界 (%) :

特 記 事 項 : アルミ箔と接触すると発火し、青色の炎をあげて燃える。コルク、ゴムなどの有機物と激しく反応する。

E m S F-A, S-B

消 火 剤 :

検 知 法 : チオ硫酸ナトリウム溶液を加えると色が消える。湿らせたでんぷん試験紙（ごはん粒でも可）を青～紫色に着色する。（ヨウ素の反応）

人 体 へ の 影 韻

作業環境の許容濃度(TLV)	T W A	S T E L	C(上限値)	経皮吸収	発がん性

毒 性 : LD₅₀ 50mg/kg (経口ラット)

蒸 气 , 粉 塵 な ど を 吸 入 し た 場 合	強く刺激する。鼻やのどに灼熱感を起こし、せき、喘息、息切れ、肺水腫、けいれん、結膜炎、鼻炎、頭痛、呼吸困難、喉頭や気管支の浮腫、化学肺炎を起こす。重症の場合には肺水腫を起こして死亡するおそれがある
飲 み 込 ん だ 場 合	口腔、食道の炎症と痛み、おう吐、下痢、頭痛、めまい、精神錯乱、昏睡、出血性腎炎、血尿、蛋白尿、無尿症、低血圧症、循環障害などを起こす。
皮 膚 に 付 着 し た 場 合	激しく刺激し、腐食して、炎症を生じる。痛みのある黒い斑点を生じる。
眼 に 入 つ た 場 合	激しく刺激し、腐食して、炎症を生じる。

救急処置

蒸氣、粉塵など吸入した場合	直ちに新鮮な空気の場所に移し、チオ硫酸ナトリウム水溶液でうがいをさせ、保温安静に努め、医師の手当を受ける。呼吸困難の時は酸素吸入を行う。マウスツウマウス甦生法は行わないこと。呼吸が停止した時は、酸素とバッグアンドマスクなど適切な装置を用いた人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	直ちに、水、牛乳又は5%チオ硫酸ナトリウム（ハイポ。例えば、デトキソールなど）を飲ませ、30gの硫酸マグネシウムを水に溶かして与え、速やかに医師の手当を受ける。無理に吐かせてはいけない。意識のない人には何も与えないこと。
皮膚に付着した場合	直ちに石けんと水で洗い流した後、チオ硫酸ナトリウム水溶液で洗う。速やかに医師の手当を受ける。
眼に入った場合	直ちに流水で十分に洗った後、医師の手当を受ける。
漏洩した場合	通風換気を十分に行い、保護具着用の上、できれば破損箇所をシールし、不活性吸着材をまいて掃き取る。還元剤としてチオ硫酸ナトリウム又は硫酸第一鉄を加えよく混ぜて、色が消えてから大量の水で洗う。
保護器具	ハロゲンガス用防毒マスク又は自給式呼吸具、保護衣、耐薬品性の保護手袋、保護長靴

B社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査 第3回委員会

- 1 日 時 平成25年4月15日(月) 13:30~15:50
2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4F 銀河の間
3 出 席 者 別紙のとおり
4 議 題

- (1) 第2回委員会議事概要について
- (2) 操船シミュレータ実験結果について
- (3) 係留動搖シミュレーション結果について
- (4) 現状最大船／受入れ計画船操縦性能比較について
- (5) ヒヤリハット等事例について
- (6) 安全性の検討について
- (7) 航行安全対策について
- (8) 防災対策について
- (9) 報告書構成について

5 資 料

第2回委員会議事概要 (案)

- (1) 検討資料委3-1 操船シミュレータ実験結果 (案)
- (2) 検討資料委3-1-1 操船シミュレータ実験結果 (データ編) (案)
- (3) 検討資料委3-2 係留動搖シミュレーション結果 (案)
- (4) 検討資料委3-3 現状最大船／受入れ計画船操縦性能比較 (案)
- (5) 検討資料委3-4 ヒヤリハット等事例 (案)
- (6) 検討資料委3-5 安全性の検討 (案)
- (7) 検討資料委3-6 航行安全対策 (案)
- (8) 検討資料委3-7 防災対策 (案)
- (9) 検討資料委3-8 報告書構成 (案)

席上配布資料

- 席上配布資料 1) 操船シミュレータにおける増減速時の浅水影響の確認
- 2) 検討資料委検討資料委3-4 追加資料 表2 浜寺航路航行中のヒヤリハット事例
- 3) 検討資料委検討資料委3-5 P2 差替え
- 4) 検討資料委検討資料委3-6 P1 差替え

6 議 事

事務局より出席者、資料の確認の後、井上 欣三委員長により議事がすすめられた。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言の修正及び委員会で、出た意見を盛り込むことを前提に承認された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授※
委 員	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	岩 瀬 潔	海技大学校教授※
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
"	竹 口 信 和	大阪湾水先区水先人会会长※
"	片 岡 徹	大阪湾水先区水先人会副会长※
"	木 本 弘 之	(独)海上災害防止センター調査研究室長
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	池 野 誓 男	(社)大阪府タグ事業協会会长 (同席 植村 博 専務理事)
"	松 田 和 男	堺泉州北船舶安全協会会长

以上 13 名

関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 戸川 義徳 海務第二係長)
"	佐々木 幸 男	第五管区海上保安本部警備救難部長 (代 伊藤 友希 環境防災課係長)
"	川 名 一 德	大阪海上保安監部長 (代 三宅 光成 航行安全課長) (同席 小川 珠樹 警備救難課専門官、 濱田 春菜 航行安全課 第一海務係員)
"	安 尾 博 志	堺海上保安署長 (同席 窪田 照雄 港務係)
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長 (代 中田 憲正 計画調整課長) (同席 山谷 武 計画調整課 計画グループ)

以上 10 名

委 託 者 B社

以上 8 名

事務局	世良邦夫	公益社団法人神戸海難防止研究会専務理事
〃	山本幸典	〃 常務理事
〃	塔本吉夫	〃 事業部長補佐
〃	竹田和子	〃 事業部員
〃	伊豫谷一成	(株)日本海洋科学関西支社取締役
〃	植山通朗	〃 顧問
〃	石黒幸子	〃 主任

以上 7 名

合計 38 名

平成25年度第2回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成25年5月21日(火)13:00～15:00

2 場 所 商船三井ビル 7階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

5 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 修正箇所 一塩化ヨウ素, 灯油

2 1223 灯油 (1回目修正)

3 リチウム電池

4 リチウム電池の国連番号と特別要件

5 3480／3481 リチウムイオン電池

データー覧, 関連資料

(2) 参考資料 1 ガソリンと揮発油の関係

(3) その他 「IMDG-CODE DVD 1枚」「IMDG-CODE 2012版 CDの内容」

「IMDG-Code Substance Index／危一規則別表第1対照表」

「IMDG-Code 一覧表」 (廣井委員長より)

6 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

資料 (3) その他で委員長が監修されたIMDG-CODE DVDの配布と関連資料の説明があり、その後個品の検討に入った。

検討個品資料 1 修正箇所 一塩化ヨウ素, 灯油は修正箇所の確認をした。

2 1223 灯油については、「油」として海防法上での扱いについて検討を行なった。危険物船舶運送安全データブックに掲載されているガソリンについても、ガソリンと揮発油の関係の資料より文言の追記を検討した。他の項目について次回も検討することになった。

3, 4, 5 3480／3481 リチウムイオン電池については、リチウムイオン電池の概要の説明が委員長よりあった。各項目について次回に検討することとなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	児 玉 正 浩	キソ一化学工業(株)代表取締役社長※ (代 末吉 信昭 技術顧問)
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)
"	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所大阪支所副支所長
関 係 官 庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	西久保 滋	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長
"	岡 村 秀 貴	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 空野 哲平 海務第二係員)
"	三 宅 光 成	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 濱田 春菜 第一海務係員)
"	坂 中 裕 司	神戸海上保安部航行安全課長 (代 正木 直人 第一海務係専門員)
事 務 局	山 本 幸 典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	藤 原 昇	" 事業部長補佐

由良港における防波堤新設に伴う船舶航行安全検討調査委員会

現地調査(23日)

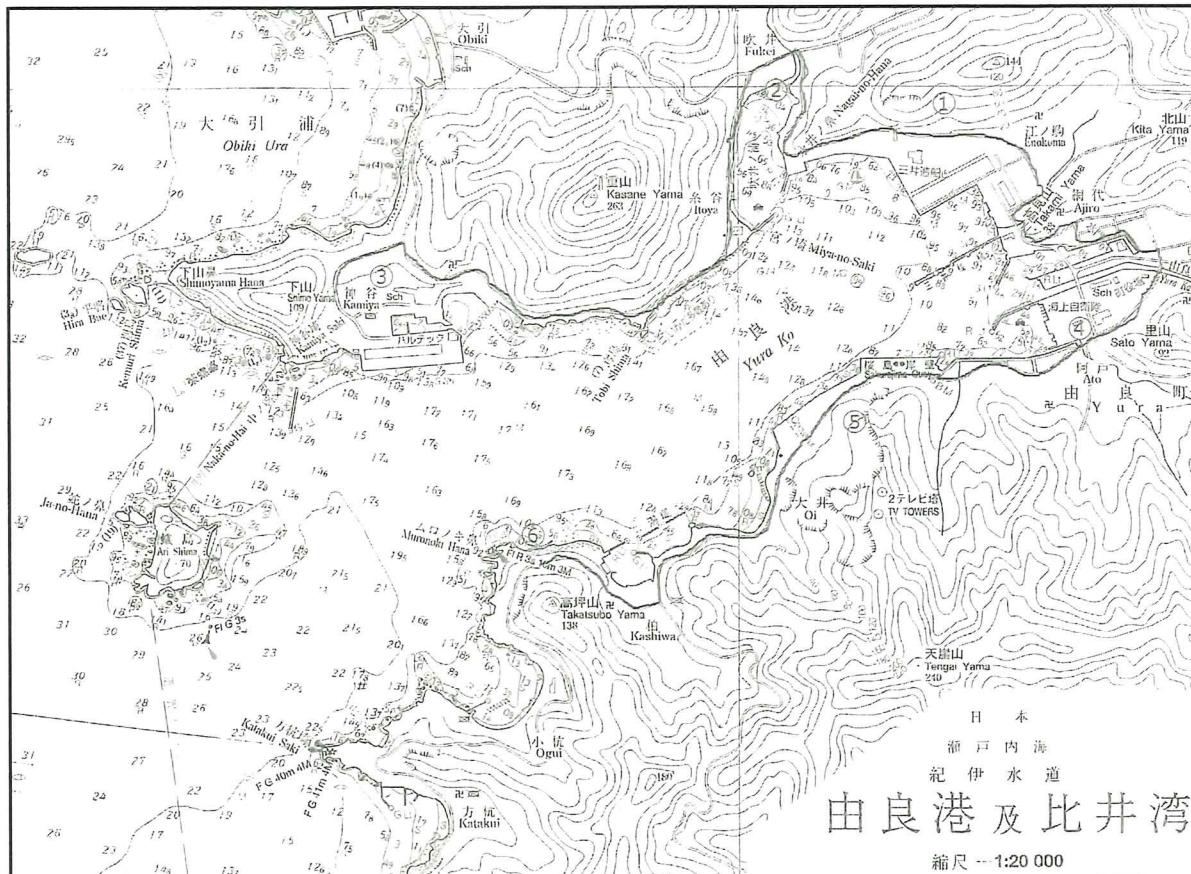
1 集合日時	平成25年5月23日(木) 午後1時00分		
2 集合場所	JR和歌山駅前 ホテルグランヴィア和歌山1階ロビー(駐車場まで案内)		
3 現地調査使用バス	和歌山バス株式会社 073-445-6278 担当者 辻岡		
4 現地調査所要時間及び概略経路	和歌山～高速(広川インター)～由良港周辺～高速～JR和歌山駅 1310 ~ 1410 1430~1600 ~1700		

由良港調査経路図

- ①由良ドック～②穴井泊地～③神谷(駒井ハルテック)～④海上自衛隊～⑤阿戸地区セメント会社
⑥柏泊地～⑦ムロノキ鼻 手前で折り返し(大型バスのためこれより先進入不可)

※ なお、道路渋滞等の発生があれば定刻どおりにはいかない場合があります。

また、経路上、由良町役場にて、関係者の 1425乗車、1610下車 があります。



23日(木) 現地調査予定表

1300 ホテルグランヴィア和歌山 1階ロビー 集合

1310 バス乗車 和歌山 発(駐車場)

1410 湯浅御坊道路 広川インター 着

1425 由良町役場 着
(和歌山県関係者 6名乗車)

1430 由良ドック前 通過

1500 駒井テック 下車 停
現地調査

1530 駒井テック 乗車 発

1545 海上自衛隊前 通過

経路上(適宜駐車可能場所での駐車)

1600 ムロノキ鼻付近まで 折り返し

1610 由良町役場 着
(和歌山県関係者 6名下車)

1620 湯浅御坊道路 広川インター
(交通事情により川辺インターの可能性もある。)

1700 ホテルグランヴィア和歌山 着 解散

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員	淺木 健 司	海技大学校教授※
"	山本 一 誠	海技大学校准教授
"	世良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	橋本 孟 土	和歌山下津水先区水先人会会长
"	今西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫田 孝 広	日本郵船(株)関西支店長代理※
"	國友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	伊田 照 夫	(株)エム・イー・エス由良ドックマスター
"	堀江 佳 宏	日鉄住金物流(株)和歌山支店長 (代 粉川 雅夫 業務部海務課主査)
"	太田 豊 隆	(一社)関西小型船安全協会理事和歌山支部長

以上 7名

関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (代 三田 弘 企画調整官) (同席 戸川 義徳 海務第二係長)
"	谷 延 京 一	和歌山海上保安部長 (代 川邊 正博 安全係長)
"	白澤 節 範	海南海上保安署長
"	谷島 義 孝	近畿地方整備局和歌山港湾事務所長

以上 5名

委託者	笠野 和 男	和歌山県日高振興局建設部長
"	川島 照 史	河港課長
"	樋本 雅 士	河港課主任
"	橋本 勇 人	和歌山県国土整備部港湾空港局港湾整備課班長
"	矢代 光 司	主査
"	上田 晃 広	和歌山県由良町産業建設課班長
"	坂本 佳 文	和歌山県日高町産業建設課主幹

以上 7名

事務局 山本幸典 公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
〃 塔本吉夫 〃 事業部長補佐
〃 豊島伸匡 (株)エム・オー・エル・マリンコンサルティング関西事務所主任研究員
以上 3名
計 22名

由良港における防波堤新設に伴う船舶航行安全検討調査

第1回委員会

1 日 時 平成25年5月24日(金)10:00~11:50

2 場 所 ホテルグランヴィア和歌山アクアグラン

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 防波堤事業の概要について(パワーポイントによる説明)
- (2) 調査方針等について
- (3) 防波堤新設計画について
- (4) 航行環境等について
- (5) 防波堤新設に係る航行船舶への影響等について

5 資 料

- (1) 検討資料委1-1 調査方針(案)
- (2) 検討資料委1-2 防波堤新設計画(案)
- (3) 検討資料委1-3 航行環境等(案)
- (4) 検討資料委1-4 防波堤新設に係る航行船舶への影響等(案)

席上配布

- (1) 検討資料委 1-1 全部差替え
- (2) " 1-3 全部差替え
- (3) " 1-4 全部差替え

6 議 事

事務局により出席者、資料の確認後、委員長の選任が行われ、淺木 健司委員が委員長に選任された。

委託者、笠野 和男 和歌山県日高振興局建設部長から挨拶が行われた後、委員長により議事が進められた。また、委員長指名により世良委員が検討部会長に決定した。

7 審議結果

提示された検討資料は、一部文言の修正、指摘等を盛り込むことを前提に了承された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	淺 木 健 司	海技大学校教授※
委 員	山 本 一 誠	海技大学校准教授
"	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	橋 本 孟 土	和歌山下津水先区水先人会会長
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	伊 田 照 夫	(株)エム・イー・エス由良ドックマスター
"	堀 江 佳 宏	日鉄住金物流㈱和歌山支店長 (代 粉川 雅夫 業務部海務課主査)
"	太 田 豊 隆	(一社)関西小型船安全協会理事和歌山支部長
		以上 9名
関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (代 三田 弘 企画調整官) (同席 戸川 義徳 海務第二係長)
"	谷 延 京 一	和歌山海上保安部長 (代 渡川 明 安全課長) (同席 川邊 正博 安全係長)
"	白 澤 節 範	海南海上保安署長
"	谷 島 義 孝	近畿地方整備局和歌山港湾事務所長
		以上 6名
委 託 者	笠 野 和 男	和歌山県日高振興局建設部長
"	楠 見 和 紀	" 副部長
"	川 島 照 史	" 河港課長
"	樺 本 雅 士	" 河港課主任
"	吉 岡 清 次	" 河港課副主査
"	常 岡 克 行	" 河港課技師
"	木 村 誠 治	和歌山県国土整備部港湾空港局港湾整備課副課長
"	橋 本 勇 人	" 班長
"	矢 代 光 司	" 主査

委託者 上田晃広 和歌山県由良町産業建設課班長
〃 坂本佳文 〃 日高町産業建設課主幹
以上 11名

事務局 世良邦夫 公益社団法人神戸海難防止研究会専務理事
〃 山本幸典 〃 常務理事
〃 塔本吉夫 〃 事業部長補佐
〃 竹田和子 〃 事業部員
〃 國安政幸 (株)エム・オー・エル・マリンコンサルティング関西事務所長
〃 豊島伸匡 〃 主任研究員
以上 6名
計 32名

平成25年度神戸中央航路等整備に伴う船舶航行安全対策検討調査 第1回委員会

- 1 日 時 平成25年6月6日(木)13:30～16:20
- 2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4F 銀河の間
- 3 出 席 者 別紙のとおり
- 4 議 題
 - (1) 調査方針について
 - (2) 第六南防波堤撤去工事計画変更等について
 - (3) ポートアイランド地区第六南防波堤西側浚渫工事（-16m）について
 - (4) • 第六南防波堤ケーソン運搬経路に係る航行安全対策について
• 第六南防波堤上部コンクリート撤去後の航行安全対策について
- 5 資 料
 - (1) 検討資料委1-1 調査方針（案）
 - (2) 検討資料委1-2 第六南防波堤撤去工事計画変更等（案）
 - (3) 検討資料委1-3 ポートアイランド地区第六南防波堤西側浚渫工事（-16m）（案）
 - (4) 検討資料委1-4 • 第六南防波堤ケーソン運搬経路に係る航行安全対策（案）
• 第六南防波堤上部コンクリート撤去後の航行安全対策（案）
 - (5) 参考資料 自然環境及び航行環境（平成21年報告書一部抜粋）
- 席上配布資料
 - (1) 検討資料委1-1 1頁差替え
 - (2) " 1-2 4頁差替え
 - (3) 検討資料委1-3 全部差替え
 - (4) " 1-4 全部差替え
 - (5) 参考資料 37頁差替え
- 6 議 事
事務局により出席者、資料の確認後、委員長の選任が行われ鈴木 三郎委員が委員長に選任された。
委託者、中島 靖 神戸港湾事務所長から挨拶が行わられた後、委員長により議事が進められた。
- 7 審議結果
提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以上

別 紙

出席者名簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委 員 長	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授※
委 員	淺 木 健 司	海技大学校教授※
"	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
"	中 島 敏 行	" 副会長※
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 弘	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	加 藤 琢 二	神戸旅客船協会会长 (代 山西 哲司 専務理事)
"	大 東 洋 治	兵庫海運組合理事長 (代 内藤 恒夫 専務理事)
"	佐 伯 邦 治	兵庫県港運協会会长 (代 加藤 日出男 専務理事)

以上 12 名

関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (代 三田 弘 企画調整官) (同席 空野 哲平 安全課海務第二係)
"	渡 辺 一 樹	第五管区海上保安本部海洋情報部長 (代 三原修一 監理課長)
"	中 村 清	神戸海上保安部長 (代 松本 勇 次長) (同席 徳丸 健嗣 交通課長、 坂中 裕司 航行安全課長、 下須 弘文 航行安全課専門官)
"	成 瀬 英 治	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 森西 弘 港湾空港整備・補償課長)
"	吉 井 真	神戸市みなど総局技術部長 (代 村井 宏一 振興部海務課港務係長) (同席 成本 克彦 技術部計画課計画2係担当係長)

以上 10 名

委 託 者	中 島 靖	近畿地方整備局神戸港湾事務所長
"	齋 藤 安 立	" 副所長 (技術)

委託者	松葉秀樹	近畿地方整備局神戸港湾事務所第一工務課長	
"	山田眞理	"	建設管理室先任建設管理官
"	高木悌二	"	港湾保安調査官
"	藤本成児	"	港湾施設監査官
"	太田純一	"	係員
			以上7名
事務局	世良邦夫	(公社)神戸海難防止研究会専務理事	
"	山本幸典	"	常務理事
"	竹村太志	"	主任研究員
"	塔本吉夫	"	事業部長補佐
"	竹田和子	"	事業部員
"	室屋聖子	(株)日本海洋科学関西支社研究員	
			以上6名
			計 35名

由良港における防波堤新設に伴う航行安全検討調査

第1回検討部会

1 日 時 平成25年6月10日(月) 13:30~15:45

2 場 所 パレス神戸 2F 大会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 検討事項の抽出（防波堤新設に伴う航行船舶への影響）について

(2) ビジュアル式操船シミュレーター実験実施方案（案）について

5 資 料

(1) 検討資料部 1-1 検討事項の抽出（防波堤新設に伴う航行船舶への影響）

(2) " 1-2 ビジュアル式操船シミュレーター実験実施方案（案）

(3) 参考資料 第1回委員会修正

席上配布資料

(1) 消波工無しのケース 平面図・縦断図

(2) 消波工無しのケース 概略断面図

(3) 消波工有りのケース 平面図・縦断図

(4) 消波工有りのケース 概略断面図

(5) 波浪条件に関する補足説明資料

6 議 事

事務局より出席者、資料の確認後、世良 亘部会長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、修正意見等の審議結果について委員会に報告することとして承認された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

部 会 長 世 良 亘 神戸大学大学院海事科学研究科准教授※

委 員 浅 木 健 司 海技大学校准教授海技大学校教授※

〃 山 本 一 誠 〃 准教授

〃 橋 本 孟 士 和歌山下津水先区水先人会会長

〃 今 西 邦 彦 (一社)日本船長協会技術顧問※

〃 迫 田 孝 広 日本郵船(株)関西支店長代理※

〃 國 友 雄 二 (株)商船三井関西支店副支店長※

〃 松 島 豊 川崎汽船(株)関西支店副支店長※

〃 伊 田 照 夫 (株)エム・イー・エス由良ドックマスター

以上 8名

関係官公序 森 部 賢 治 第五管区海上保安本部交通部長

(代 三田 弘 企画調整官)

(同席 戸川 義徳 海務第二係長)

〃 谷 延 京 一 和歌山海上保安部長 (代 川邊 正博 安全係長)

〃 白 澤 節 範 海南海上保安署長 (代 岡林 晃 次長)

谷 島 義 孝 近畿地方整備局和歌山港湾事務所長

(代 三村 正樹 工務課長)

以上 5名

委 託 者 木 村 誠 治 和歌山県県土整備部港湾空港局港湾整備課副課長

〃 橋 本 勇 人 和歌山県県土整備部港湾空港局港湾整備課班長

〃 矢 代 光 司 〃 港湾整備課主査

〃 川 島 照 史 和歌山県日高振興局建設部河港課長

〃 横 本 雅 士 〃 主任

〃 吉 岡 清 次 〃 副主査

以上 6名

事 務 局 山 本 幸 典 公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事

〃 塔 本 吉 夫 〃 事業部長補佐

事務局 竹田和子 公益社団法人神戸海難防止研究会事業部員
〃 國安政幸 株エム・オー・エル・マリンコンサルティング関西事務所所長
〃 豊島伸匡 〃 主任研究員
以上 5名
計 24名

平成25年度第3回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成25年6月11日(火)13:00~15:00

2 場 所 商船三井ビル 7階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

5 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 ガソリンおよび灯油の海防法の記載

2 3480／3481 リチウムイオン電池
データ一覧、関連資料

3 リチウム電池の国連番号と特別要件

6 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められ後個品の検討に入った。

検討個品資料 1 ガソリンおよび灯油の海防法の記載について検討を行なった。

前回検討した文言について、危険物船舶運送安全データブックに掲載されているガソリンに追記することとなった。

灯油に関しての検討は次々回で行うこととなった。

2 3480／3481 リチウムイオン電池については、検討個品資料3より検討を行なった。次回も検討することとなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	児 玉 正 浩	キソ一化学工業(株)代表取締役社長※ (代 末吉 信昭 技術顧問)
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)
"	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所大阪支所副支所長
関 係 官 庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	西久保 滋	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 浅松 謙司 第二災害対策係長)
"	岡 村 秀 貴	第五管区海上保安本部交通部安全課長
"	三 宅 光 成	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 新角 伸浩 第一海務係専門員)
"	坂 中 裕 司	神戸海上保安部航行安全課長
事 務 局	山 本 幸 典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	藤 原 昇	" 事業部長補佐

由良港における防波堤新設に伴う船舶航行安全検討調査
ビジュアル式操船シミュレータ実験

1 実施日時 平成25年6月20日(木)～6月21日(金)

2 実施場所 (株)エム・オー・エル・マリンコンサルティング本社

3 出席者 別紙のとおり

4 シミュレータ実験実施内容

20日(木) 1300集合

1300～1330 実験概要説明

1330～1615 実験開始ケース1～ケース5

ケース1～5(リプレイ・評価)

1615～1700 追加ケース(必要な場合)及び
入港操船総括

1700 解散(追加ケース等あれば解散時間延長)

21日(金) 0900 集合

0900～0915 実験概要説明

0915～1045 ケース6～ケース8

ケース6～8(リプレイ・評価)

1045～1100 休憩

1100～1200 ケース6～ケース8

ケース6～8(リプレイ・評価)

1200～1300 昼食

1300～1400 ケース11～ケース12

ケース11～12(リプレイ・評価)

1400～1430 総括・解散

5 資料

(1) ビジュアル式操船シミュレータ実験実施方案概要

(2) アンケート用紙

以上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) は欠席者

※海防研常任委員

部 会 長	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
委 員	浅 木 健 司	海技大学校教授※
"	山 本 一 誠	海技大学校准教授
"	橋 本 孟 士	和歌山下津水先区水先人会会長
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長
"	伊 田 照 夫	(株)エム・イー・エス由良ドックマスター

以上 7 名

関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (代 三田 弘 企画調整官) (同席 戸川 義徳 海務二係長)
"	谷 延 京 一	和歌山海上保安部長 (代 川邊 正博 安全係長)
"	白 澤 節 範	海南海上保安署長
"	谷 島 義 孝	近畿地方整備局和歌山港湾事務所長

以上 3 名

委 託 者	川 島 照 史	和歌山県日高振興局建設部河港課長
"	樺 本 雅 士	" 河港課主任
"	矢 代 光 司	和歌山県国土整備部港湾空港局港湾整備課主査

以上 3 名

事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
"	塔 本 吉 夫	" 事業部長補佐
"	國 安 政 幸	(株)エム・オー・マリンコンサルティング関西事務所長
"	豊 島 伸 匠	" 主任研究員

以上 4 名

計 17 名

平成 24 年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議

1 日 時 平成 25 年 6 月 24 日 (月) 14:00 ~ 15:20

2 場 所 神戸第 2 地方合同庁舎 9 階 事案対策室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

平成 25 年度近畿・四国地方海難防止強調運動の実施計画について

5 資 料

(1) 資料 1 全国海難防止強調運動基本計画

(全国海難防止強調運動実行委員会)

(2) 資料 2 平成 25 年度全国海難防止強調運動実施計画

(全国海難防止強調運動実行委員会)

(3) 資料 3 平成 25 年度近畿・四国地方海難防止強調運動実施要領 (案)

(4) 資料 4 平成 25 年度近畿・四国地方海難防止強調運動啓蒙用品等について

(5) 資料 5 平成 25 年度全国海難防止強調運動用ポスター リーフレット

参考資料

平成 25 年度近畿・四国地方海難防止強調運動実施要領プレゼン資料

平成 24 年度活動状況資料

6 議事概要

事務局より出欠状況が報告され、資料の確認後、(公社)神戸海難防止研究会
福間 和之 会長の挨拶があり、引き続き、第五管区海上保安本部 平田 友一
次長の挨拶が行われた。

次に事務局並びに第五管区海上保安本部から資料 (案) の説明が行われた。

1) 資料 (1) (2) (3) について、第五管区海上保安本部 岡村 秀貴 交通部安
全課長から説明があり了承された。

2) 資料 (4) (5) について、事務局から説明があり了承された。

以上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

構成員	谷 本 光 司	近畿地方整備局長（代 平見 満 沿岸域管理官）
"	川 崎 正 彦	四国地方整備局長
"	大 久 保 仁	近畿運輸局長（代 田中 曜 海上安全環境部長）
"	和 田 昌 雄	神戸運輸監理部長（代 加藤 栄 海上安全環境部調整官）
"	丸 山 研 一	四国運輸局長（代 國分 知郷 海上安全環境部次長）
"	永 井 章	神戸海洋気象台長（代 山神 政司 次長）
"	平 井 透	神戸地方海難審判所長（代 渡辺 健 書記官）
"	千 葉 廣	運輸安全委員会事務局神戸事務所長 (代 川村 勝幸 事故調査調整官)
"	堀 尾 保 之	水産庁瀬戸内海漁業調整事務所長（代 東原 茂 調整課長）
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問
"	山 田 邦 雄	(一社)関西小型船安全協会会長（代 天野 俊夫 事務局長）
"	田 渕 訓 生	全国内航タンカー海運組合関西支部長 (代 永石 大機 事務局)
"	津 田 哲 夫	全国内航タンカー海運組合漁槽船支部長（同 上）
"	山 田 登	内海水先区水先人会会长（代 近岡 信夫 副会長）
"	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会长（代 木田 勤 総務部）
"	興 村 明 仁	近畿旅客船協会会長（代 尾上 隆彦 安全対策委員）
"	加 藤 琢 二	神戸旅客船協会会長（代 山西 哲司 専務理事）
"	一 色 昭 造	四国旅客船協会会長
"	山 崎 正 一	日本押船土運船協会会長（代 綾塔 輝美造 顧問）
"	田 口 雅 彦	全日本海員組合関西地方支部支部長（代 遠藤 飾 副支部長）
"	鴨 頭 明 人	全日本海員組合中国・四国地方支部支部長
"	久 米 秀 俊	大阪湾広域臨海環境整備センター理事（代 橋本 宗明 参事）
"	伊 藤 敬 一	PW安全協会関西地方本部本部長
"	酒 井 隆 司	日本郵船(株)関西支店支店長（代 追田 孝広 支店長代理）
"	田 辺 賢 洋	川崎汽船(株)関西支店支店長（代 松島 豊 副支店長）
"	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長

構成員 石 指 雅 啓 第五管区海上保安本部長（代 平田 友一 次長）
(同席 森部 賢治 交通部長 岡村 秀貴 安全課長
西岡 嗣容 企画課課長補佐 東浦 救難課
谷岡 敦 安全課専門官 川端 成記 安全課海務一係長
清水 景平 安全課一係専門員)
〃 寄 神 茂 之 公益財団法人海上保安協会神戸地方本部本部長
〃 福 間 和 之 公益社団法人神戸海難防止研究会会长

地区推進母体構成員

- 〃 大阪地区海難防止強調運動推進連絡會議議長
(代 三宅 光成 大阪海上保安監部航行安全課長)
- 〃 兵庫県阪神淡路地区海難防止強調運動推進連絡會議議長
(代 坂中 裕司 神戸海上保安部航行安全課長 同席 加藤 一也 専門官)
- 〃 播磨地区海難防止強調運動推進連絡會議議長
(代 片山 敬義 姫路海上保安部交通課長)
- 〃 和歌山北部地区海難防止強調運動推進連絡會議議長
(議長 林 典夫 ふみお 株式会社ハヤシ海運代表取締役会長
同席 渡川 明 交通課長)
- 〃 紀南地区海上安全対策協議会会长
(代 長澤 孝二 田辺海上保安部交通課長)
- 〃 徳島地区海難防止強調運動推進連絡會議議長
(代 岩崎 信之 徳島海上保安部交通課長)
- 〃 高知地区海難防止強調運動推進連絡會議議長
(代 萩原 覚 高知海上保安部交通課長)
- 〃 大阪湾海上交通センター所長
(代 新富 敏隆 運用管制課長 同席 斎藤 信夫 整備課長)

計 41 名

事務局 世 良 邦 夫 公益社団法人 神戸海難防止研究会専務理事
〃 山 本 典 幸 " 常務理事
〃 塔 本 吉 夫 " 事業部長補佐
〃 藤 原 昇 " 事業部長補佐
〃 竹 田 和 子 " 事業部員
〃 菊 田 憲 次 公益財団法人 海上保安協会神戸地方本部事務局長

計 6 名

合計 47 名

* 構成員 37 団体

平成25年度近畿・四国地方海難防止強調運動実施要領（案）

（平成25年7月～平成26年6月）

I 全国運動 ＜海の事故ゼロキャンペーン＞

平成25年度全国海難防止強調運動実施計画（平成25年3月5日全国海難防止強調運動実行委員会）に基づく重点事項及び推進項目、これに地方独自の推進項目をあわせた計画とする。

第1 キャンペーン期間

平成25年7月16日（火）から31日（水）まで（16日間）

第2 重点事項等

1 重点事項

- (1) 「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」
- (2) 「小型船の安全対策の徹底」【地方重点項目】「軽率海難防止の徹底」
及び「ライフジャケットの常時着用の徹底」

2 推進項目

- (1) 「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」
 - ア 常時適切な見張りの徹底
 - イ 船舶間コミュニケーションの促進
 - ・早めに相手船にわかりやすい動作をとる
 - ・VHFや汽笛信号等を活用する
- 【地方推進項目】国際VHFの常時聴守
 - ・AIS情報の活用と正しい情報の入力
- (2) 「小型船の安全対策の徹底」
 - ア 発航前点検の徹底〔プレジャー・ボート〕
 - イ 航行中のみならず操業・作業中も含めた見張りの徹底〔漁船・遊漁船共通〕
 - ウ 気象・海象情報の入手〔プレジャー・ボート・漁船・遊漁船共通〕
 - エ ライフジャケット着用等自己救命策の確保〔プレジャー・ボート・漁船・遊漁船共通〕
 - オ 【地方推進項目】構成員が連携した安全活動の推進〔プレジャー・ボート〕

II 地方運動（霧海難防止キャンペーン）

近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議独自の運動として霧の多発する時期を捉えて、次のキャンペーンを実施する。

1 霧海難防止キャンペーン

(1) 運動名

霧海難防止キャンペーン

(2) 運動期間

平成26年4月1日（月）から同年6月30日（日）まで（3ヶ月間）

(3) 推進項目

- 気象状況の早期把握
- 船舶間コミュニケーションの促進
- 航法の遵守
- 自動操舵装置の使用を控える
- 早期避泊

III 各運動の実施要領

別途定める。

平成25年度近畿・四国地方海難防止強調運動実施計画（案）

各運動共通

区分	実施項目		実施団体
イ 広報活動	1 機関紙を通じての広報等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本会議事務局から構成員あて広報文を配布 2 ポスター等の配付・掲示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央作成のポスター等を配布、掲示 ・ 当地方作成の広報用グッズを関係先に配布 ・ 各地区が必要に応じてポスター及びリーフレット等を適宜作成し配布 3 その他の広報活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 横断幕、垂れ幕、海難0旗、表示板等を構成員の府舎・船舶等に掲示 ・ インターネットHP、電光掲示板等を活用した周知 ・ 船内放送、場外放送等による周知 		全構成員が独自及び連携して実施
ロ 各種行事	・ 「1日船長」、「1日〇〇長」などの任命 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験航海、海上パレード等の実施 ・ 灯台、船舶等構成員の施設の一般開放 		
ハ 安全に 関する 指導、 教育、 訓練	1 訪船指導 <ul style="list-style-type: none"> 着桟中の旅客船、貨物船及びタンカー等を訪問し、「常時適切な見張り」と「国際VHFの常時聴取」を目的とした安全指導を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 2 現場指導 <ul style="list-style-type: none"> プレジャーボート、遊漁船、漁船及び工事作業船等に対して、「軽率海難の防止」と「ライフジャケットの常時着用」を目的とした安全指導を実施 3 企業訪問 <ul style="list-style-type: none"> マリーナ等を訪問し、「軽率海難の防止」及び「ライフジャケットの常時着用」を目的とした安全指導を実施 4 構成員の連携 <ul style="list-style-type: none"> 1～3については、合同パトロールを計画するなど、可能な限り構成員が相互に連携した安全指導を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 		
練	1 安全研修会等 <ul style="list-style-type: none"> 関係団体及び企業により、関係者を対象とした安全研修会等を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 2 海難防止講習会 <ul style="list-style-type: none"> 各地区において海難防止講習会を実施 また、関係者が集まる会議等の場を活用した海難防止講習会を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 3 構成員の連携 <ul style="list-style-type: none"> 1と2について、可能な限り構成員が相互に連携した教育活動を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 		
訓練	・ プレジャーボート等救難訓練等の各種救難訓練を実施		
実施結果報告	各運動の実施後1ヶ月以内に、別添様式を参考にして、実施した概要及びその中で効果的であったものを記載し、事務局あて報告。（実施状況の説明用に画像データを適宜添付のこと。） ※報告先 toumoto@kobe-kaibouken.or.jp		

別添様式

平成25年度近畿・四国地方海難防止強調運動活動報告書

1. 活動実績総括表

組織名

(1) 広報活動

(2) 各種行事

(3) 安全に関する指導・教育・訓練

用途 安全運航に関する指導隻数	種別		全国海難防止強調運動
	漁船	隻	隻
プレジャーボート			隻
貨物船			隻
木材運搬船(再掲)			隻
タンカー			隻
旅客船			隻
作業船			隻
その他			隻
合 計			隻
企業等訪問件数			件

(4) 安全教育関係

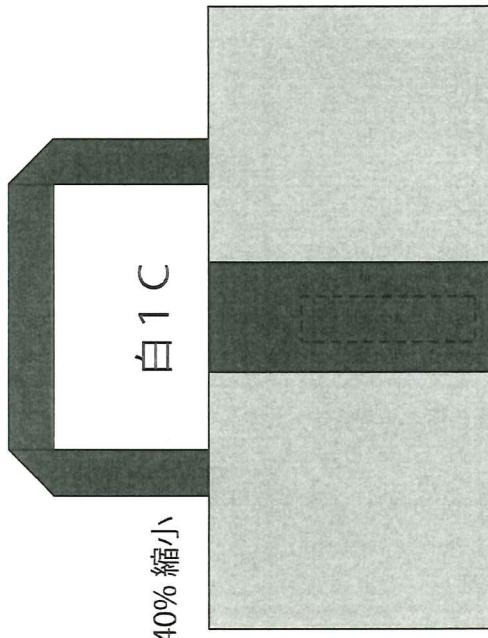
項目	種別		全国海難防止強調運動
	実施回数	受講者数	人
海上安全教室	回		人
海難防止講習会	回		人
合 計	回		人

2. 留意事項

- 1) 実施計画に基づいた活動を実施した際は、写真撮影のうえ本報告書に添付してください。
- 2) ポスター、パンフレットを掲示した場合は、写真撮影のうえ本報告書に添付してください。
- 3) 各運動の実施後1ヶ月以内に画像添付のうえ下記アドレスまでメール送信願います。

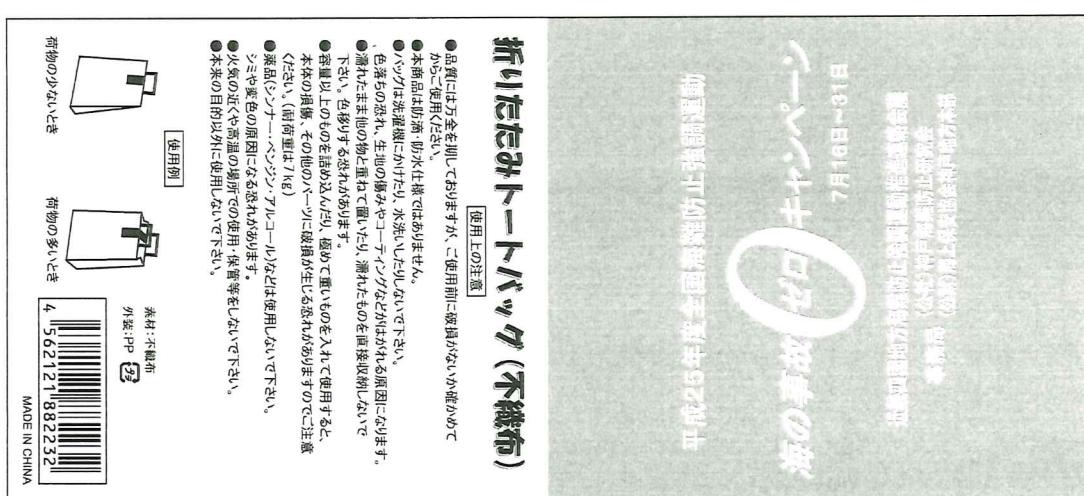
toumoto@kobe-kaibouken.or.jp

W220×H224mm



10

40% 縮小



折りたたみトートバッグ(不織布)

使用上の注意

- ハグリは洗濯機にかけたり、水洗いしないで下さい。濡れたままの袋の袋口を重ねて閉じたり、濡れたものを直射日光下に置いたり、色移りする恐れがあります。
 - 濡れたままの袋の袋口を重ねて閉じたり、濡れたものを直射日光下に置いたり、色移りする恐れがあります。
 - 容器以上の量のお湯を詰め込んだり、極めて重い物を入れて使用すると、本体の故障、その他のバーナーに障害が生じる恐れがあるますのでご注意ください。(耐荷重は1kg)
 - 薬品(シンナー・ベンジン・アルコールなど)は使用しないで下さい。
 - 火気や熱の原因になる恐れがあります。
 - 本來の目的以外に使用しないで下さい。

印刷サイズ：W149×H94mm

海の事故ゼロキャンペーン

7月16日～31日

近畿四国地方海難防止強調運動推進連絡會議
事務局 (公社) 神戸海難防止研究会
事務局 (公財) 海上保安協会神戸地方本部

平成25年度全国交通安全防止指針運動
キヤノンペーパー
7月16日～31日

会務報告

第10回 業務運営会議

1 日 時 平成25年4月24日(水)12:00～12:45
2 場 所 (公社)神戸海難防止研究会 会議室
3 出 席 者 (順不同・敬称略)

代表理事	福間和之	公益社団法人 神戸海難防止研究会会長
業務執行理事	鈴木三郎	副会長 神戸大学名誉教授
"	村田勝久	副会長 内海水先区水先人会会长
"	根本正昭	副会長 (株)商船三井執行役員 (代 國友 雄二 関西支店副支店長)
"	世良邦夫	公益社団法人 神戸海難防止研究会 専務理事
"	山本幸典	" 常務理事
オブザーバー	竹口信和	大阪湾水先区水先人会会长
"	小島茂	(一社)日本船長協会会長 (代 今西 邦彦 技術顧問)
"	佐々木真己	川崎汽船(株)取締役専務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)
"	酒井隆司	日本郵船(株)関西支店長 (代 迫田 孝広 関西支店長代理)
"	須貝壽榮	元神戸地方海難審判庁府長
"	改発康一	神鋼物流(株)顧問
事務局	板坂茂良	公益社団法人 神戸海難防止研究会総務部長代理
"	宮島照仁	"

下線は交替者

4 議題

- (1) 業務報告等について
- (2) その他
 - ① 平成25年5月総会・理事会提出議案について
 - ② 新役員就任スケジュール

5 資料

席上配布

- 資料1 業務報告等
- 資料2 平成25年5月総会・理事会提出議案
- 資料3 新役員就任スケジュール

6 議事概要

事務局から、委員の出欠確認の後、福間会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

事務局から資料について説明があり、議題については特に意見はなかった。

以上

公益社団法人 神戸海難防止研究会 第4回 理事会議事録

1 日 時 平成25年5月14日(火) 13時25分から

14時45分までの間

2 場 所 神戸市中央区波止場町5番6号

神戸メリケンパークオリエンタルホテル4階銀河の間

3 理 事 数 18名

出席理事 12名

福間和之

鈴木三郎

村田勝久

根本正昭

世良邦夫

山本幸典

嶋貫勝彦

竹口信和

児玉正浩

須貝壽榮

秋山信

南一郎

4 監 事 数 3名

出席監事 2名

八木武人

山本亨

5 議 案

第1号議案 情報管理室職員就業規程の制定について

第2号議案 入会申込みの承認について

第3号議案 第2回通常総会の開催について

第4号議案 平成24年度事業報告及び決算について

第5号議案 定款及び諸規則の変更について

第6号議案 役員(理事・監事)の選解任について

第7号議案 その他

6 議事の経過概要及びその結果

13時25分に開会、事務局から本日の出席理事は12名で、理事総数18名の過半数を超えており、定款第42条の規定により本理事会が成立する旨報告した。

定款第41条の規定に基づき福間会長が議長となり、挨拶を行い、本日の議事録の署名に関して定款第45条に基づき、福間議長と出席監事の八木武人氏及び山本亨氏にお願いして議事の審議に入った。

○ 第1号議案 情報管理室職員就業規程の制定について

事務局から配布資料に基づき説明を行い、議長は、質疑の有無を議場に諮ったところ、南理事から資料1の「情報管理室職員就業規程」第12条第9項の室長等の等

について質問があり、事務局から室長以外の次長も管理技術者となる場合もある旨説明したところ了承した。

以上の質疑応答終了後、議長が議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第2号議案 入会申込みの承認について

事務局から入会希望者について説明するとともに、本会への入会は、定款第8条第1項に基づき、理事会において入会の可否を決定する必要がある旨説明を行った。

議長は、質疑の有無を議場に諮ったところ、村田理事から入会者の経歴等の質問があったので、事務局から略歴を説明したところ了承した。

以上の質疑応答終了後、議長が議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第3号議案 第2回通常総会の開催について

事務局から配布資料に基づき説明を行った後、議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第4号議案 平成24年度事業報告及び決算について

事務局から平成24年度事業報告及び決算について、配布資料に基づいて説明を行った。

次いで、山本監事が平成25年4月19日に監査を実施した結果、財産、会計及び業務の執行状況について、適正、正確であった旨の監査報告を行った。

議長は、質疑の有無を議場に諮ったところ、鈴木理事から事業報告の内容に一部脱字がある旨指摘があったので修正をした。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第5号議案 定款及び諸規則の変更について

事務局から配布資料に基づいて説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第6号議案 役員の選解任について

役員の転勤等により交代する役員の選解任について、事務局から配布資料に基づいて説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第7号議案 その他

以上で、提出された議案についての審議は終了したので、その他何かないか諮つたところ、特に質疑はなかった。また、事務局からの連絡事項等もなかった。

以上で、議長は、本日の議案審議の全部が終了した旨を告げ、14時45分に閉会した。

平成25年5月29日

議長 福間和之

出席監事 八木武人

出席監事 山本亨

公益社団法人 神戸海難防止研究会
第2回 通常総会議事録

- 1 日 時 平成25年5月29日(水) 15時00分から
16時15分までの間
- 2 場 所 神戸市中央区波止場町5番6号
神戸メリケンパークオリエンタルホテル
4階瑞天東の間
- 3 正会員総数 117名
- 4 出席正会員数 101名
うち、出席者49名、書面表決賛成者35名、表決委任者17名
- 5 出席理事 10名
福間 和之 鈴木 三郎 村田 勝久
根本 正昭 世良 邦夫 山本 幸典
小田 啓二 児玉 正浩 須貝 壽榮
南 一郎
- 6 出席監事 3名
八木 武人 改発 康一 山本 亨
- 7 議 案
第1号議案 平成24年度事業報告及び決算について
第2号議案 定款及び諸規則の変更等について
第3号議案 役員(理事・監事)の選解任について
第4号議案 その他
- 8 議事の経過概要及びその結果
15時00分に開会
事務局から本日の出席正会員は101名であり、正会員総数117名の過半数超えているので、定款第21条の規定により本総会が成立する旨報告するとともに、定款の変更に関する決議にあっても同条第2項の3分の2以上を超えていた旨の報告があった。
次いで、総会の開会にあたり福間会長から挨拶が行われた。
事務局は、定款第19条の規定に従い議長の選任を議場に諮った結果、福間会長が選ばれて議長になった。

議長は、議事録署名人について議場に諮り、出席会員の中から世良邦夫、今西邦彦の両氏を選任し、議案の審議に入った。

○ 第1号議案 平成24年度事業報告及び決算について

事務局から平成24年度事業報告及び決算について、配布資料に基づいて説明を行った。

次いで、山本監事が平成25年4月19日に監査を実施した結果、財産、会計及び業務の執行状況について、適正、正確であった旨の監査報告を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席会員全員なんら異議なくこれを承認したから、可決した。

○ 第2号議案 定款及び諸規則の変更等について

事務局から配布資料に基づいて説明を行った後、議長は、質疑の有無を議場に諮ったところ、賛助会員の1名から説明資料のうち「理事の職務規則」第2条の変更案について、この条を削除する又は「理事とは、定款第26条第1項の理事をいう。」に語句訂正をする方が適正である旨の意見があった。事務局から当該語句の修正については会長に一任する旨提案があった。

議長は、賛助会員及び事務局から提案のあった訂正及び語句の修正に関する可否について議場に諮ったところ、出席会員全員なんら異議なくこれを承認したから、可決した。

○ 第3号議案 役員の選解任について

役員の転勤等により交代する役員の選解任について、事務局から配布資料に基づいて説明を行うとともに新理事の任期は、前任者の残任期間とするため、平成26年度に開催される通常総会までである旨説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席会員全員なんら異議なくこれを承認したから、可決した。

○ 第4号議案 その他

以上で、提出された議案についての審議はすべて終了したので、その他何かないか諮ったところ、特に質疑はなかった。また、事務局からの連絡事項等もなかつた。

以上で、議長は、本日の議案審議の全部が終了した旨を告げ、16時15分に閉会した。

平成25年5月29日

議長 福間和之

議事録署名人 世良邦夫

議事録署名人 今西邦彦



〈総会時風景〉

公益社団法人 神戸海難防止研究会 第5回 理事会議事録

- 1 日 時 平成25年5月29日(水) 16時20分から
16時40分までの間
- 2 場 所 神戸市中央区波止場町5番6号
神戸メリケンパークオリエンタルホテル
4階瑞天東の間
- 3 理事数 20名
出席理事 16名
福間和之 赤岡隆夫 鈴木三郎
山田登 根本正昭 世良邦夫
山本幸典 高岡信男 小田啓二
村井五郎 引間俊雄 大東洋治
児玉正浩 村岡博 酒井隆司
南一郎
- 4 監事数 3名
出席監事 3名
八木武人 改発康一 山本亨

- 5 議案
第1号議案 代表理事、業務執行理事の選定について
第2号議案 会長職務代行順序の指名について
第3号議案 業務運営会議構成員の委嘱について
第4号議案 「給与等について」の一部改正について
第5号議案 その他

6 議事の経過概要及びその結果

16時20分に開会、事務局から本日の出席理事は16名で、理事総数20名の過半数を超えており、定款第42条の規定により本理事会が成立する旨報告した。

定款第41条の規定に基づき福間会長が議長となり、挨拶を行い、本日の議事録の署名に関して定款第45条に基づき、福間議長と出席監事の八木武人民、改発康一氏及び山本亨氏にお願いして議事の審議に入った。

- 第1号議案 代表理事、業務執行理事の選定について
事務局から配布資料により、第2回総会において、理事の選解任が了承されたことから、定款第27条に基づき、代表理事及び業務執行理事等について、説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第2号議案 会長職務代行順位の指名について

事務局から配付資料に基づいて、「理事の職務規則」第8条第2号に規定する会長の職務を代行する順位の指名について、説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第3号議案 業務運営会議構成員の委嘱について

事務局から業務運営会議構成員の構成員3名が退任すること、及び代表理事及び業務執行理事の変更があったので、業務運営会議規程第3条第2項に基づき、後任の構成員等として業務運営会議構成員名簿（案）により委嘱することの同意を求めたい旨説明を行ったところ、鈴木理事から「業務運営会議の構成員」について質問があり、事務局から業務運営会議規程第3条において、「業務運営会議は、代表理事及び業務執行理事のほか、専門的意見を聴くため正会員の中から若干名のオブザーバーをもって構成する。」旨説明し、了承した。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第4号議案 「給与等について」の一部改正について

事務局から配布資料に基づいて、「給与等について」の一部改正について説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第5号議案 その他

議長は、その他何かないか諮ったところ、事務局から本日、大阪湾水先人会所属の「本内正和」氏から当会への「入会申込書」の提出だったので、同人について説明すると共に、本会への入会は、定款第8条第1項に基づき、理事会において入会の可否を決定する必要がある旨説明を行った。

議長は、質疑の有無と入会の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

以上で、議長は、本日の議案審議の全部が終了した旨を告げ、16時40分に閉会した。

平成25年5月29日

議長　福間和之

出席監事　八木武人

出席監事　改発康一

出席監事　山本亨

第11回 業務運営会議

1 日 時 平成25年6月19日(水)12:00～12:45
2 場 所 商船三井ビル 7F 会議室
3 出 席 者 (順不同・敬称略) [REDACTED] 欠席者

代表理事	福間 和之	公益社団法人 神戸海難防止研究会会長
"	赤岡 隆夫	内海水先区水先人会名誉会員
業務執行理事	世良 邦夫	公益社団法人 神戸海難防止研究会 専務理事
"	山本 幸典	" 常務理事
構 成 員	鈴木 三郎	神戸大学名誉教授
"	山田 登	内海水先区水先人会会長
"	根本 正昭	(株)商船三井執行役員 (代 國友 雄二 関西支店副支店長)
"	村井 五郎	大阪湾水先区水先人会会長
"	小島 茂	(一社)日本船長協会会長 (代 今西 邦彦 技術顧問)
"	佐々木 真己	川崎汽船(株)取締役専務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)
"	酒井 隆司	日本郵船(株)関西支店長 (代 迫田 孝広 関西支店長代理)
"	改発 康一	神鋼物流(株)顧問
事務局	板坂 茂良	公益社団法人 神戸海難防止研究会総務部長代理
"	宮島 照仁	" 神戸海難防止研究会
"	竹田 和子	" 事業部員

4 議 題

- (1) 業務報告等について
- (2) 常任委員の委嘱について
- (3) その他

5 資 料

席上配布

- 資料1 業務報告等
資料2 常任委員名簿

6 議事概要

事務局から、委員の出欠確認の後、福間会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

事務局から資料について説明があり、議題については特に意見はなかった。

以上

○ 事務日誌抄

(H25. 4. 1~H25. 6. 30)

月 日	曜 日	時 間	委 員 会 名	実 施 場 所
4. 9	(火)	1430	平成 25 年度第 1 回船積危険品研究委員会	商船三井ビル 7 F 会議室
4. 15	(月)	1330	B 社大型原油タンカー船型大型化に伴う航行安全対策調査第 3 回委員会	メリケンパークオリエンタルホテル
4. 24	(水)	1200	第 10 回業務運営会議	商船三井ビル 7 F 会議室
4. 25	(木)	1500	第 10 回月例会	こうべまちづくり会館
5. 10	(金)	1300	役員候補者評価委員会	神戸海難防止研究会会議室
5. 14	(火)	1330	第 4 回理事会	メリケンパークオリエンタルホテル
5. 21	(火)	1300	平成 25 年度第 2 回船積危険品研究委員会	商船三井ビル 7 F 会議室
5. 23	(木)	1300	由良港における防波堤新設に伴う船舶航行安全検討調査現地調査及び	由 良 港
5. 24	(金)	1000	第 1 回委員会	ホテルグランヴィア(和歌山市)
5. 29	(水)	1500	第 2 回通常総会、第 5 回理事会	メリケンパークオリエンタルホテル
6. 6	(木)	1330	平成 25 年度神戸中央航路等整備に伴う船舶航行安全対策調査第 1 回委員会	メリケンパークオリエンタルホテル
6. 10	(月)	1330	由良港における防波堤新設に伴う航行安全検討調査第 1 回検討部会	パ レ ス 神 戸
6. 11	(火)	1300	平成 25 年度第 3 回船積危険品研究委員会	商船三井ビル 7 F 会議室
6. 19	(水)	1200	第 11 回業務運営会議	商船三井ビル 7 F 会議室
6. 20	(木)	1300	由良港における防波堤新設に伴う船舶航行安全検討調査ビジュアル式操船シミュレータ実験	エム・オーエル・マリンコンサルティング東京本社
~21	(金)			
6. 24	(月)	1330	平成 25 年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議	神戸第 2 地方合同庁舎
6. 25	(火)	1500	第 11 回月例会	こうべまちづくり会館

